

中学校第2学年 美術科学習指導案

日 時 平成27年10月16日(金)

指導者 教育センター所員 本島 民子

1 題材名

自分の街をデザインしよう！～誰にでも分かるマーク(ピクトグラム)づくり～

第2学年 A表現(2)(3) B鑑賞

2 題材観

中学校学習指導要領解説(美術編)では、「美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うこと」⁽¹⁾が重視されている。また、指導上の配慮事項として、「地域の材料や題材などを取り上げる」⁽²⁾とあり、地域の文化を授業で扱うことは、郷土のよさについて理解を深め、保存とさらなる発展への関心を高めることにつながると考える。生活の中にみられる美術文化に気付かせること、美術の授業で学習したことが生活の中で生かされていると実感させることは、生徒の学習に対する意欲を高め、学力の向上が期待できる。

第2学年及び第3学年における「A表現」項目(2)では、社会性や客観性を一層意識し、目的や条件、機能などを広い視野で総合的にとらえ、発想や構想を練ることをねらいとしている。また、使用するの気持ちなどを考えて発想や構想する場面で形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえて活動するための〔共通事項〕を位置付けた学習活動が求められている。

本題材は、生徒の生活の場となる自分の街の文化を他者に伝えるためのマークづくりを行い、伝達のデザインの基礎を学ぶことをねらいとしている。郷土のよさに関心を持ち、他者にそれらを伝えるためのデザインをすることは、郷土に対する理解を深める契機になると考える。また、対象をマーク(ピクトグラム)に表現することは、形の単純化や強調をしたり、色数を限定し効果的な配色を考えたりするため、生徒に〔共通事項〕の視点を意識させる学習活動を期待することができる。学習内容については、次の3つの視点で指導を行う。1つ目は、自分の街の特産品や観光地などを題材にした学習に取り組みせ、郷土に対する理解を深めさせる。2つ目は、〔共通事項〕の視点を意識した学習活動にするために、特産品や観光地などを他者に分かりやすく伝えるマーク(ピクトグラム)づくりを行わせる。3つ目は、よりよい創造を目指す主体的な態度を養うために協同的な学びを取り入れ、制作の過程で、アイデアスケッチや作品についてグループで話し合ったり批評し合ったりさせる。このことは、自分の作品を俯瞰することや学習目標を確認しながら制作をすることになり、よりよい作品づくりになると期待している。指導の手立てとしては、活動を支援するワークシートを作成し、言語活動の充実と〔共通事項〕に示される資質や能力の高まりを図りたい。

3 題材の目標

- (1) 郷土のよさを多くの人に伝えるために、誰にでも分かるマーク(ピクトグラム)にすることに留意してデザインをする。
- (2) 形や色彩の効果を考え、表したいイメージを基に表現方法を工夫する。
- (3) アイデアスケッチや作品について批評し合うなどの協同的な学びを通して、よりよい創造を目指す主体的な態度を養う。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> 郷土のよさに関心をもち、それらを分かりやすく伝えるために主体的に表現しようとしている。 作品のよさを感じ取り、表現に込められた思いを自分の価値意識をもって主体的に感じ取ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象の特徴をとらえ、形や色彩などの効果を生かし、分かりやすさを考えて表現の構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ピクトグラムの特性を理解し、表したいイメージをもって形や色彩の効果などを生かしながら表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい作品にするために、形や色彩を意識して批評し合い、改善点を見出している。 作品のよさを感じ取り、表現に込められた思いを自分の価値意識をもって味わっている。

5 指導と評価の計画(全3時間)

時数	学習のねらい「●」、学習活動「・」	評価規準「○」、評価方法
第1時	<p>1 課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ●伝達の表現について理解し、そのよさなどを味わう。 ・誰にでも分かるマーク(ピクトグラム)づくりについて理解する。 ・自分の街の自慢の特産品や観光地をアピールするためのデザインについて意見を述べ合う。 ・既習の内容を振り返り、題材と関連付ける。 既習の内容「色の整理」、「配色の工夫」 <p>2 表現の発想・構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象の形や色彩の特徴などをとらえて、誰にでも分かるデザインを考えて発想し、構想を練る。 ・マークの統一感を図るために、グループで話し合い活動をする。 ・印象的に伝えるための形や色彩の効果を考え、アイデアスケッチをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現への意欲や態度 〈観察【関①】〉 ○主題を生み出し、構想を練っている。 〈ワークシート1, 2【発①】〉
第2時	<p>3 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●発想や構想の過程で批評し合、デザインの改善を図る。 ・批評の視点に沿って改善を図る。 視点1 表したいイメージを基に形や色彩の効果を考え てデザインしている。 視点2 誰にでも分かるデザインになっている。 <p>4 表現の発想・構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ●批評を基に、構想を練り直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞への意欲や態度 〈観察, ワークシート2【関②】〉 ○主題を表現するための形や色彩などの工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって批評している。 〈ワークシート2【鑑①】〉 ○批評を基に、構想を練り直している。 〈ワークシート2【発②】〉

第 3 時	5 制作 ●表したいイメージを基にマーク（ピクトグラム）を制作する。 ・アイデアスケッチを基に、表現方法を工夫して色紙で作成する。	○ピクトグラムの特性を理解し、形や色彩などの効果を生かして、対象を分かりやすく表現している。 〈ワークシート3【創①】〉
	6 鑑賞 ●完成した作品を互いに鑑賞する。 ・マークの主題や工夫を発表し、互いの作品のよさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう。	○鑑賞への意欲や態度 〈観察【関③】〉 ○〔共通事項〕の視点で作品のよさを鑑賞している。 〈ワークシート4【鑑②】〉

6 本時の目標

- ・主題を分かりやすく伝達する表現の工夫に関心を持ち、主体的に感じ取ろうとする。
【関心・意欲・態度】
- ・批評を基に、構想を練り直している。
【発想や構想の能力】
- ・主題を表現するための形や色彩などの工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって批評する。
【鑑賞の能力】

7 指導の視点

- ・伝えたい主題を効果的に表現するために、〔共通事項〕の視点を意識した学習活動に取り組ませる。
- ・グループで統一感のあるデザインにするために、話し合い活動を取り入れる。
- ・生徒の主体的な学びを育成するために、ワークシートを活用したり、批評し合う活動を取り入れたりとすることで、言語活動の充実を図る。

8 本時の展開(全3時間 本時2/3)

過程	学習活動の内容	指導の手立て	評価規準(◇〈見取り【観点】〉と支援(▽))
導 入	1 前時の学習を振り返る。 [ワークシート1] ・ピクトグラムの留意点の確認をする。 ・選択した主題の確認をする。 ・形や色彩の効果的な表現の確認をする。 ・グループの共通するデザインの確認をする。	○自分の街の特産品や観光地のよさについて振り返らせる。 ○マークづくりの留意点を示す。 ・ワークシート1「アイデアスケッチのポイント」 形・色彩〔共通事項〕の視点と関連させる。 統一感グループで考えたイメージを確認させる。	▽形や色の効果的な表現とピクトグラムの関連を想起させる。 [掲示物, ワークシート1]

誰にでも分かるマークにしよう！～形と色彩の効果を生かして～			
展 開	<p>2 アイデアスケッチを確認する。 [ワークシート1]</p> <p>3 アイデアスケッチについて批評し合い、改善点を見出す。 [ワークシート1, 2]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のアイデアスケッチを紹介する。 よりよい作品になるように、相互に改善点を検討する。 	<p>○導入で確認したことに留意させ、アイデアスケッチを仕上げさせる。</p> <p>○批評の視点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート1「アイデアスケッチのポイント」 視点1 対象のイメージを基に形や色彩の効果を考えてデザインしている。 視点2 ピクトグラムの特徴に留意し、誰にでも分かるデザインになっている。 視点3 制作方法を考慮したデザインになっている。 	<p>◇主題を分かりやすく伝える表現の工夫に関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>◇主題を表現するための形や色彩などの工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって批評している。</p> <p>〈観察, ワークシート2【関・鑑】〉</p> <p>▽批評の視点をワークシートや板書で示唆する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ピクトグラムの特徴となる形や色彩 制作方法
展 開	<p>4 作品を改善する。 [ワークシート2]</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰にでも分かる形や色彩を意識して作品を改善する。 制作方法に留意して、輪郭線を整理する。 	<p>○批評を基に、作品を改善させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一感 グループで共通させるデザインを確認させる。 形 対象の特徴を見直し、輪郭線を整えさせる。 色彩 対象の特徴を見直し、印象に残る配色をさせる。 	<p>◇批評を基に、イメージやピクトグラムの視点で作品を改善している。</p> <p>〈ワークシート2【発】〉</p>
ま と め	<p>5 本時を振り返る。 [ワークシート2]</p>	<p>○批評がどのように作品に生かされたのか振り返らせる。</p> <p>○次時に、アイデアスケッチを基に作品を制作することを伝える。</p>	<p>◇批評後の作品の変容を読み取ろうとしている。</p> <p>〈ワークシート2【鑑】〉</p>

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成20年9月 日本文教出版 p. 4
(2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成20年9月 日本文教出版 p. 80

《参考文献》

- ・北尾 倫彦 『平成24年版 観点別学習状況の評価基準と判定基準』 2012年3月 図書文化社